

ロンドンへ 行ってみよう

「一度は行ってみたいロンドン。でも知らない国は何か不安」と思いつつ、ベルギー滞在が終わらないうちに、列車で出かけてきました。ロンドンっ子は皆とても親切。笑顔で助けてくれ、トラブルなく楽しい滞在を終えられました。

ユーロスター www.eurostar.com

まずは、ロンドン行きのチケットを取らないと始まりません。インターネットを通してユーロスターのチケットを予約しましょう。予約画面から出発日とベルギーへ戻る日、人数を指定をクリックします。早めに予約すると、簡単に1人片道€44でチケットを購入できます。購入したチケットは、メールで受け取り、印刷して当日持参しましょう。

座席は変更可能です。進行方向 (Towards front) と逆向き (Towards rear) に座るシートがありますので、確認しましょう。また、窓のない席 (写真左) もあるので気をつけましょう。荷物は、小さめのスーツケースなら座席の上の棚に載せられます。車内入り口の荷物置き場に置いた荷物はなくなることがあるそうですので、小さめの荷物で移動しましょう。



出発

イギリスへの出発なので、パスポートとIDカードを忘れずに持参しましょう。チケットをチェック・インした後、出国の手続きがあります。チケットと共にパスポートとIDカードを提出して、簡単に済ませます。その後、すぐにイギリスへの入国手続きがあります。こちらでは、入国カードに必要事項を記載し、チケット、パスポート、IDカードと共に提出します。入国に際し、滞在期間、目的、職業などを詳しく聞かれます。すでに入国カードに全部記載されているのですがね。この入国カードは、入国審査場の手前右手に置いてあり、なんと日本語でも質問事項が記載されています。よほど日本人観光客やビジネスマンが多いのでしょうか。

入国を許可されたら、荷物チェックを受け、待合室で待機となります。ここには、キオスク、カフェ、チョコレート店、トイレなどがあり、待ち時間を過ごせます。出発直前までホームには入れません。



到着

イギリスに到着したら入国審査はありませんが、検査官が待機しており、旅行者に質問したり、旅行者の質問に答えたりしてくれます。駅を出たら、いきなり室内ショッピングモールのようなところに出ます。ベルギーのPain Quotidienがあり、「おっ、ベルギーと変わらない」と思いますが、皆さん英語で会話しているのでほっとします。ここで、左に行くと地下鉄の入り口、右に行くと建物の外に出られます。ホテルに荷物を置いてから、観光に出かけましょう。



Oysterカード・地下鉄・バス

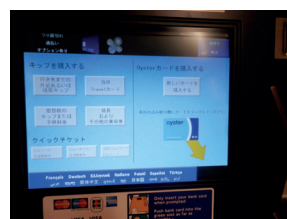
ロンドン市内は、5分歩けば公共交通機関の停留所、駅にぶつかるといほど、交通網が発達しています。交通費は、乗るたびにチケットが必要ですので、バス・地下鉄共通の乗車カード「Oyster」を購入しましょう。これは、日本のSuicaカードなどと同じように、ある程度の金額をチャージし、入り口のリーダーにタッチして、乗車するというシステムです。1日券や、1週間券を選択することもできます。5ポンドのデポジットも別途必要ですが、イギリス出国前にカードを返却すると戻ってきます。購入は窓口でできますが、機械からの購入は、表示を指定すれば何と日本語の説明がでけますので、クレジットカードを使って購入すると簡単に済みます。

観光地ロンドン、バカンス時期はOyster購入のため、St. Pancras駅の窓口はものすごい混雑になっています。あちこちに券売機があるので、別の駅で購入するのも手ですね。このカードで、バス・地下鉄に乗車できます。

地下鉄路線は複数ありますが、それぞれのライン名が色とともに表示されており、車内の手すりの色もラインの色に塗られているので、どのラインかを見分けるのは簡単です。入り口付近はベビーカー用のスペースだったり、シニア・障害者用の席だったりします。古いセントラル・ラインなどは車体が狭く、ラッシュ時はものすごい人になりますが、時間を外せばらくらく乗車できます。出口は「Way out」と黄色で表示されています。

バスの停留所に表示してある路線表内の目的地をみれば、何番のバスに乗ればいいのかが表示されています。一度は2階建てのバスに乗って、上からのロンドンも眺めてみましょう。

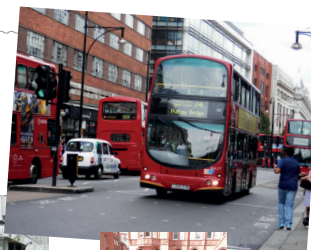
Oysterカードの返却には、IDカードとクレジットカードが必要です。



ロンドンの街



ロンドンには、ビジネスや観光で世界中から人が訪れて、各国語が聞こえてきます。観光をしながら、それぞれのお国柄を観察するのも楽しいですね。観光名所以外にも見るものはたくさんあります。テーマを決めて見て歩くというのも面白そうです。

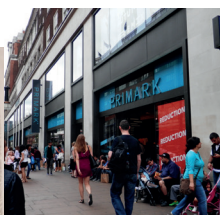


観光地

観光ガイドで紹介しているところ以外でも、見るところがいろいろあります。医学に興味のある方は、Lincoln's Inn Fields（地下鉄Holborn）にあるHunterian Museum（写真上、無料）で動物や人体の標本をご覧ください。

買い物がお好きな方は、若者向けのTシャツやジーンズ、靴を売っているCamden Town（地下鉄ノーザン・ライン）へ。また、Shepherd's Bush（セントラル・ライン）には、大きなショッピングセンターがあります。ベルギーでも見かけるブランドもありますが、国によって好みが違うので、イギリスファッションを探るにはいいところ。安く大量に衣類を探している方には、Primarkがおすすめ。Marble Arch（セントラル・ライン）をはじめあちこちにある店です。Tシャツ5ポンド、ソックス5足で3ポンドなど、本当に安い。若者が入ったら出てこないというほど、豊富に商品が並んでいて、見ているだけでも楽しい店です。ベルギーには、リエージュに1店舗のみあります。

その他、市場も数カ所にあり、衣類以外にも野菜・果物など食料品が並び、お昼どきにのぞいてみると、各国のおいしいランチにめぐり合えるかもしれません。



レストラン・カフェ

イギリスの食事は期待できないとよく言われていましたが、最近では美味しい店が増えたようです。それだけでなく、各国料理店も多く見られます。人気の中華レストランに行ってみました。

Mandarin Kitchen（ウェブサイトなし）

14-16 Queensway, W2 3RX London Tel +44 (0)20 7727 9012

ハイパークの外れ、地下鉄Queenswayにある、地元の人には人気のレストランです。ここは、ロンドンで一番ロブスターを消費する店だそうです。そのロブスターを使った焼きそば（写真上）にトライしてみました。味付けはいろいろあるようですが、シンプルにショウガとスプリングオニオン味を注文しました。1人前がこの量、食べ応えがありました。店員が各皿に取り分けてくれるサービスもうれしいです。

イギリス料理を代表するフィッシュ&チップス（写真右）とテムズ河畔を散歩中に見つけたGabriel's Wharf（デザイン・ショップとレストラン・カフェ街）内のPieministerのパイ料理（写真左）に挑戦しました。どちらもイギリスの味。一度はお試してください。

そして、どうしても外せないのがアフタヌーン・ティーです。主にホテルや高級カフェで提供していて、場所によっては予約しておかないと席を確保できません。当日時間ができて、どうしても試してみたいけどどこに行こうとお考えの方、大英博物館内のレストランで15時からアフタヌーン・ティーを注文できます。香りのいいイングリッシュ・ティーとともに、軽食や菓子をイギリス人になった気分味わってみてください。



コメント

*大都市ロンドンを訪れる観光客は、引きも切りません。夏の時期はものすごい観光客でごった返します。ゆっくりロンドンを楽しみたい方は、バカンス期以外の平日がおすすめです。

*7月末から9月末の2カ月間、バッキンガム宮殿内を見学できます。www.royalcollection.org.uk

*ミュージカルや劇を気軽に鑑賞できるロンドンです。知っているストーリーなら、少々言葉がわからなくても楽しめます。また、トラファルガー広場では、オペラ座の公演を大スクリーンにて上演しています。次回9月17日（水）19h30は、ヴェルディの「リゴレットRigoletto」です。www.roh.org.uk/about/bp-big-screens/london